

ネグロスセミナーを開催しました。

2016年11月7日(月) <学習会>10:00~12:00
<チョコレートワークショップ>13:00~15:00



熱く丁寧に話す野川さん

グリーンコープでは、28年前フィリピンのネグロス島の砂糖飢餓におけるバナナの民衆交易にはじまり、ネグロスの人々との共生・連帯の取り組みをすすめてきました。そして現在はフィピン北部ルソン、東ティモール・インドネシアへ自立と支援の輪が広がっています。今回は取り組みの様子を知ると共に、「児童労働ではないチョコレートが食べたい」という組合員の声から形になったパプアの力カオ豆生産者の様子についても理解を深め広げようとチョコレートワークショップを開催しました。



チョコレートのクイズ

講師の野川さん(特定非営利活動法人APLA)からは、ネグロス島で民衆交易がはじまったところの事から、パプアのチョコレートの話まで、丁寧に話していただきました。組合員さんのアンケートの中には、「ネグロスバナナは安心・安全なバナナなので、という理由だけで利用していましたが、その商品がうまれるまでの歴史を教えてください感動しました。」「人と人とのつながりを通してとても大切にしているということに涙がでそうになるくらい感動しました。」などの感想がたくさんありました。



ネグロスグッズの販売も

チョコレートワークショップ



初体験のチョコレートづくりに緊張!?

ワークショップでは、初めてチョコレートづくりに挑戦しました。チョコレートは、温度管理が大変でしたが、30分ほどで固まるので意外と簡単にできました。キットの中に入っているチョコレートの原料になる力カオニブを作る作業を体験しましたが、これはとても大変でした。ホワイトチョコレートについてや、力カオの多いチョコレート、ミルクチョコレートなど、いろんな種類のチョコレート作りを体験できました。ワークショップの開催方法についても学習することができたので、地区会やキープ&ショップなどでも開催できたらいいなと思いました。



参加者の感想

- ・今回初めてネグロスの歴史等のお話を聞き、歴史から、与えるのではなく、自立に向けた関わりを目的としての民衆交易であることがよくわかりました。
- ・ネグロス島の飢餓の時もグリーンコープの先輩組合員が現地に赴き、病院で栄養失調の子どもを抱き、「紙袋よりも軽い」と言われ日本に帰ってネグロスキャンペーンを開始し街頭募金活動などを行ったこと。緊急支援から半年、ネグロスの砂糖労働者から「魚ではなく、魚を捕る網が必要だ!」という声があり、援助から自立できる農業の確立と一緒に考えていくようになったこと。故兼重専務が、現地の人々が食べていなかったバランゴンバナナを選択し、日本へ初めて届いたときの話や「クキゾウムシも悲しいのだよ」と話されたときの話。等々私たち組合員も語り継いでいかねばならないとの思いをあらたにしました。
- ・インドネシアのエコシュリンプのお話では、市販の安いエビとどう違うのか、エサもやらない魚と一緒に養殖するなど、自然と共生する持続可能な養殖の様子などを知りました。力カオの生産者の置かれている現状など大変な様子があるが、私たちのできること組合員に伝え利用してもらうことで支援、応援していきたいと思いました。
- ・ネグロスでの厳しい状況や、子どもの命が「紙袋より軽い命」とたとえられたことは同じ子どもをもつ母親として、ととても心が痛みます。また、過酷な児童労働があっている現実がとても悲しい。この現状を少しでも多くの人に知ってもらえるような活動に参加していきたいと思います。